



NO.24 2019.5月発行

【編集・発行】塩竈市教育委員会教育部教育総務課  
〒985-0052 塩竈市本町1番1号  
☎:022-362-7744 ファクス:022-365-3347  
WEB版 配信中  
<http://www.city.shiogama.miyagi.jp>



市文化財「<sup>しょうがろう</sup>勝画楼」応急修繕工事完了 ～報道関係の皆さんに一部公開されました～



壱番館から望む勝画楼。雨漏り対策のため、屋根全体がガルバリウム鋼板で覆われた（4月10日）

江戸期の旧書院「勝画楼」。雨もりなどによる建物の劣化、損傷の進行を防ぐため応急修繕工事を行いました。今後は、文献に加え、周辺発掘による建物痕跡調査を行い、県文化財指定の申請を目指します



今回の応急修繕工事概要の説明を受ける報道関係の皆さん（4月10日・鹽竈神社地内）



動物侵入を防ぎ、書院の東側を支える懸造（かけづくり）部分が補強された（4月10日）→

問 生涯学習課 ☎ 362-2556

どきどき、わくわく。さあ、一年生だ ～ 市内小中学校で入学式 ～

4月8日、9日の両日、市内小中学校で入学式が行われました。今年入学を迎えたのは小学生 381人、中学生 397人。市内小中学校の児童生徒の皆さんは全体で 3,530人となりました。

先生のちよつとだけ  
**Pickup**  
  
サービス宣誓式

歓迎の言葉を述べる  
佐藤 昭市長

ようこそ！塩竈の学校へ  
  
本市に新たに転入着任した50人の教職員の皆さんが職務宣誓式に臨みました（4月3日 遊ホール）

新規採用教職員が代表してあいさつ



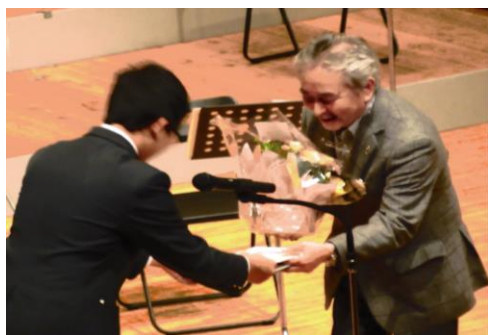
「友達をたくさん作りましょう」校長先生のお話に元気に「ハイ！」と返事する新一年生の皆さん（4月8日 二小）

問 学校教育課 ☎ 365-3216

『塩竈市中学校吹奏楽部合同コンサート』開催 ～ご厚志に感謝を込めてパフォーマンス披露～



全員での合同演奏は圧巻。会場からアンコールの声（4月20日 遊ホール）



市内4つの中学校吹奏楽部が合同で行う恒例のコンサートが開催されました。長年、楽器を寄付されている大河内昭子さん（東京在住）に代わって駆けつけた福田富承さんに感謝の花束が贈られました（4月20日 遊ホール）

復興支援『しおがまチャレンジ教室』開講 ～ 決意を胸に、今年も挑戦します ～

「しおがまチャレンジ教室」は、東日本大震災の復興支援として東大寺（奈良市）のご厚志で開設し、5年目を迎えます。今年度は市内中学生52人が登録し、一年間、仲間の皆さんと放課後の自主学習にチャレンジします。（4月19日 公民館本町分室）



真剣なまなざしで開講式に臨む生徒の皆さん（4月19日 公民館本町分室）



開講式で東大寺からの支援に尽力された阿部仁美さんからお祝いと激励のことが送られました

問 学校教育課 ☎ 365-3216 / 教育総務課 ☎ 362-7744

ちよつだけ Pickup

シリーズ・お宝拝見します ①

湯川秀樹は日本人初のノーベル賞を受賞した理論物理学者。昭和30年代、一中の佐藤 PTA 会長と浅野校長が湯川氏にお願いして書いてもらったとされる。「厭不而學（がくじふえん）」とは論語からの引用で、「学んでも、学んでも嫌になることがない」の意。



現在、校長室に飾られている「厭不而學（がくじふえん）」の額。左側に湯川秀樹と名前が書いてある（4月16日 一中）

問 第一中学校 ☎ 362-1321

Movement ～5月の動き～

- 1日（水祝）、2日（木祝）、5日（日祝）
- 市民図書館、ふれあいエスパ塩竈 ※臨時開館
- 3日（金祝）おやじバンドライブ■遊ホール（壱番館）
- 5日（日祝）オリジナルミニブックを創ろう■エスパ
- 11日（土）市P連総会■グランドパレス塩釜
- 19日（日）エスパコンサートドメニカ■エスパ
- 24日（金）教育委員会定例会■壱番館
- ☆～6月16日
- ☆企画展「まちと記憶と映画館」■市杉村惇美術館
- 18日（土）☆関連イベント Swing Dance Party
- 26日（日）☆関連イベント 青春を歌う。うたごえ喫茶
- 事業名・会場名は一部略称で表記しています。また予定は変更される場合があります。ご了承ください
- ※大型連休期間の各施設の開館日については市の公式HP、広報しおがま4月号をご覧ください

編集後記

- 満開の桜は、せわしない毎日を自然と穏やかな気持ちにさせてくれます。そのような中開催された恒例「神々の花灯り」。市内あちらこちらで咲き誇る様々な桜を愛でながら、ゆったりとまち歩きを満喫しました（ひ）
- 「感動は心の運動。運動不足より感動不足が深刻かも」とは105歳を全うした医師日野原氏の言葉。なぜかしら心が震える、気持ちが動く。それは日常の中にこそある。生徒の皆さんの演奏が証明している（幹）